



箕輪進修高校 進路指導室

2013. 1. 15

3, 4年生用 No.74



## 種を蒔けばどこかで芽が出る

9年前に『グローバル化と日本の工業』という本を出版しました。経済のグローバル化と人口減少化社会の中で日本の工業はどうやって生き残っていったらよいかを私なりに考察し全国版で出版しました。昨年末に出版社より連絡があり、この本の初版本がほぼ売り切れたため重刷し、この出版社が出した中から選んだ100冊の中の1として東京の紀伊國屋書店等であと4年間常設本として配本したい。またこれを電子書籍化しないかというお誘いを受けました。当初、9年前に出した本でありこの種の本は小説等と異なり時代に直結していることが求められるはずであり今更賞味期限切れではないかと固辞しようとしたのですが、今の時代にも十分耐えうる本だといわれ、出版社の意向に同意しました。

この本は扱う内容が大変大きく難しいテーマであります、自分がこれまでずっと考えてきたことを、前任校在職中に全力投球で書き、本校に赴任した直後に出版しました。3年ほど前に渋谷のNHKからこの本に関し進路室に直接電話がかかってき取材を受けたことがありましたが、私としてはこの本はあまり売れ無かったのではとずっと思っていました。そのため出版社からの今回の連絡に少し驚いてしまいました。(この本に興味のある人は本校の図書館に寄贈してあります。)

自分で何かに打ち込んだことがどこかで多少なりとも評価されるということは誰にとっても嬉しいことです。以前にこの進路だよりで「種を蒔かなければ芽は出ない」と書きましたが、その思いを強めています。**種を蒔いたから必ず芽が出るものではありません。**しかし、やはり**日頃から地道な取り組みをしていればどこかで芽がでることもあるでしょう。**



「大きな幸運」だけを

願い続ける人ほど、

いつまで経っても

こころのピンチから抜け出せません。

そうかんたんには出合えないからです。

けれども、日常生活の中の

「小さな幸運」を大事にできる人は違います。

こちらは感じ方、受け止め方だけで毎日、

誰でも出会うことができるからです。

それによって少しずつ気持ちを

明るくしていくことも

むずかしくはないのです。

(「こころのピンチ」を救うシンプルな考え方、和田秀樹)

<コメント>

人は大きな幸運を求め、いっきに大逆転したいと考えがちです。

ちょっとくらいの幸運では、何も変わらないように思えるから。

しかし、大きな幸運は、めったに来ません。不幸だと思っている人ほど、自分の近くに来た幸運に気づかなかつたり、それをものにできる能力が、ちょっと足りなかつたりします。

だから、小さな幸運が大切。

それは、いたるところに、転がっているから。

それは、あなたの感じ方、受け止め方次第です。

それを拾って、大切に育てられるかが、その先の幸せをつかめるかの違いになる。

(<http://www.mina-kawa.com/e/4865.html> 参照)